

旭医大調査 職場でのストレス 医師3割「ある」

旭医大二輪草センター(復職・子育て・介護支援センター)は、同大病院に勤務する医師・看護師の職場のストレスや対人トラブルに関するアンケート結果をまとめた。職場でのストレスについて医師・看護師ともに約九割が「ある」と回答、ストレスの内容は医師の三割、看護師の四割が「人間関係」を挙げた。

調査は、常勤・非常勤合わせ、医師が全体の約三分の一にあたる百二十五人、看護師は五割強の三百七十八人が回答。同センターの道男女平等参画チャレンジ賞受賞記念セミナーで、菅野恭子同センター助教が結果を発表した。

回答者の年齢は医師が三十〜四十代が多く、看護師は二十代が最多で、ともにほとんどがフルタイム勤務。職場でのストレス内容は順に、医師が「忙しさ」三三・五%、「人間関係」三二%、「業務内容」二八%で、看護師は「人間関係」四四%が受

けたことがあり、内容は患者本人と同様「相手の思い違い」が多かった。モンスターパーシェントを診察したことがある医師は六四%、担当したことがある看護師は四九%。モンスターパーシェントのタイプとして、医師は「人格障害を伴っている」を挙げた人が多く、次いで「自己顕示欲が強い」「相手を攻撃する」とが目的」とした。看護師では「自分に注目してほしい」が多く、「自己顕示欲が強い」「相手を攻撃することが目的」の順だった。

セミナーでは、神奈川県立保健福祉大の生田倫子講師が「職場ストレス対処にブリーフセラピーを生かす試み」について講演し、参加者は患者や家族に対するコミュニケーション技法をワークショップ形式で学んだ。

患者からのクレームを受けたことは、医師・看護師とも六割が「ある」と回答し、クレーム内容も「相手の思い違い」を挙げた人が両職種とも最多だった。患者家族からのクレームは医師の五二%、看護師の四四%が受

講演し、参加者は患者や家族に対するコミュニケーション技法をワークショップ形式で学んだ。